

1月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 —平成27年6～10月—

医動物担当では、主に市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。またデング熱は、平成26年8月に、約70年ぶりとなる国内発生がありました。そのため、感染症発生時対策として、平常時より地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことは必要です。

主な結果 ライトトラップ法により捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種9,047個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ6,964個体（77.0%）でした。次いで、アカイエカ群が1,342個体（14.8%）、キンパラナガハシカが237個体（2.6%）、ヤマトヤブカが235個体（2.6%）捕獲されました。また、ヒトスジシマカなどのヤブカ属を捕獲する目的で、スウィーピング法による調査も行っています。捕獲された雌成虫の蚊媒介感染症ウイルス検査結果は、ホームページに掲載しています。

残留農薬検査（平成27年度 その3）

微量汚染物担当では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。今回は、平成27年10月から11月までに健康福祉局食品専門監視班および各区福祉保健センターより搬入された農産物の検査結果を報告します。

主な結果 《市内産農産物》33検体について検査を行ったところ、4種類6項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

《国内産農産物》7検体について検査を行ったところ、3種類3項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

《輸入農産物》2検体について検査を行いました。いずれの検体からも農薬は検出されませんでした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成27年12月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、インフルエンザワクチン、リシン毒素に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は116,553件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。